

[4] 串間市小体連（学校数10校 児童数 883人）

I 年間事業

期 日	事業名	主な内容	会 場
5月 8日 (水)	第1回南那珂地区小中学校教科等研究会		南郷ハートフルセンター
5月 9日 (木)	第1回理事会	前年度事業、会計報告・役員選出・事業計画・予算案の審議	本城小学校
6月20日 (木)	第2回理事会	研究推進・事業計画・体力テストの実施について・水泳記録会に変わる取組について	本城小学校
8月29日 (木)	第3回理事会	研究推進・授業研究会指導案検討 水泳記録集計・陸上記録会審議	本城小学校
10月10日 (木)	第4回理事会	研究推進・授業研究会指導案検討 陸上記録会審議・陸上記録会用具確認	市総合運動公園
10月23日 (木)	第5回理事会	陸上記録会選手名簿確認・前日準備	福島小学校・市総合運動公園
10月29日 (火)	第54回串間市小学校陸上記録会		市総合運動公園
11月18日 (月)	第2回南那珂地区小中学校教科等研究会		大東小学校
12月12日 (木)	第6回理事会	陸上記録会反省・研究のまとめ	本城小学校
2月10日 (月)	第7回理事会	事業反省・研究のまとめ	本城小学校
2月12日 (水)	第3回南那珂地区小中学校教科等研究会		南郷ハートフルセンター

II 事業部のあゆみ

1 水泳の部

(1) 水泳大会に代わる取り組み

- 昨年度まで実施していた串間市全体の水泳記録会(水泳大会)は、今年度から中止となった。そのため、今年度は、各学校で記録を測定した。その記録を集計し、各種目別に上位3位まで(串間市全体)の表彰を行った。

(2) 測定方法

- 宮崎県小体連の示している測定方法に準ずる。

(3) 表彰

- 上位3名までを入賞とし、表彰状を渡す。

(4) 反省

- 小規模の学校では、記録を取る際、職員の人数が足りない。
- プールにコースロープがあるのかないのかで、記録が違ってくる。

2 陸上大会

(1) 大会名 第54回 串間市小学校陸上教室

(2) 実施日 令和元年10月29日(火)

(3) 会場 串間市総合運動公園内陸上競技場

(4) 出場者 串間市内各小学校6年生児童 ※小規模校は5年生も参加(161名)

(5) 実施種目

- トラック競技
 - ・100m ・800m(女子) ・1000m(男子) ・50mハードル ・400mリレー
- フィールド競技
 - ・走り高跳び ・走り幅跳び ・ソフトボール投げ

(6) 競技方法

- タイムレースとする
- 出場は、100mとリレーを除き、1人2種目とする。100mは全員参加とする。フィールド競技は、1人1種目のみ参加できる。
- 競技は、原則として学年別、男女別とする。
- その他細部については、串間市小学校体育連盟による競技規則を適用する。

(7) 日程

開会式	8:45	競技開始	9:15
競技終了	13:15	閉会式	13:30

(8) 表彰

- 上位6名までを入賞とし表彰し、参加児童全てに記録賞を渡す。

(9) 反省

- 役員の確保が難しい学校がある。
- 児童の減少、役員不足などの観点から今後、記録会を実施していくのかの検討が必要である。

III 研究部のあゆみ

1 研究主題

運動の楽しさやできる喜びを味わい、運動にすすんで関わる児童の育成
～主体的・対話的で深い学びのある授業の工夫・改善を通して～

2 研究内容

- (1) 主体的・対話的で深い学びのある体育科授業の在り方について
- (2) 主体的・対話的で深い学びのある授業の実際
- (3) 授業研究会の実施

3 研究の目標

運動の楽しさやできる喜びを味わい、運動にすすんで関わりたくなるような指導の在り方を究明する。

4 研究の仮説

体育科授業において、主体的・対話的で深い学びの視点から、自己の課題と向き合い、技のポイントを意識できるような工夫を行えば、自己の課題を解決する楽しさを実感するようになり、運動にすすんで関わるようになるであろう。

5 研究の実際

(1) 本体連の考える主体的・対話的で深い学びのある体育科授業

目指す児童の姿

- ① 課題を見つけ、解決に向けて主体的に運動に取り組む児童
- ② 人対人、人対教材などの対話を通して、課題解決につなげることができる児童
- ③ ①と②の過程を通して、試行錯誤を重ねながら、思考を深め、よりよく解決するにはどうすればよいかを考える児童



「学びのプロセス」に視点を当てためあて

今日のめあては「技のポイントを意識していろいろな技に挑戦しよう」

友だちの足の勢いを真似たらできた！勢い大切だな。

(人対人の対話)

自分の動画と友達を見ていたら、最後に手で押すことが大切だな。

(人対教材の対話)

足を振り落とすタイミングをもう少し遅くするとできるんだな。(自分との対話)

跳び箱マット

坂道マット

前の段階の技ならできたぞ。腰を高くすると勢いがつくのかな。(思考を深めている)

技のポイントを意識して行うとどうでしたか？

開脚前転につながる技はできました！

今までより足をけるようにしたらできました。足の勢いが大切です。

教師の評価も児童の評価もプロセスがどうだったかになる。

楽しさ喜び

深い学び

このような学びのプロセスによって、自己の課題を主体的に解決し、対話し、深く考えられるようになった児童は「楽しさやできる喜びを感じ、すすんで運動に取り組む」ようになると考える。

(2) 授業の実際

研究授業を南那珂地区教科等研究会体育・保体部会

1 授業者 中村健太教諭(串間市立大東小学校6年1組)

2 単元名 器械運動(マット運動)

3 本時の目標

- 基本的な回転技や倒立技のポイントに気付き、実践することができる。(知識・技能①)

4 授業のポイント

- 導入では毎時間、器械運動の基礎感覚を高める「準備運動10」を行う。
- 学習指導過程をなか1「全員で同じ技を練習する」となか2「自己の課題に応じた技を練習する」とで分けて、確実に技を習得し、広げることができるようにする。
- 自己の課題に応じて主体的に技の練習ができるようなワークシートを活用する。技を系統的に示し、スモールステップで練習ができるような形式にする。
- 技のポイントを全体で共有することで、ポイントをもとにして児童同士の対話ができるようにする。
- タブレットのカメラを活用し友達に撮影してもらうことで、アドバイスをもらったり、自分で見返して振り返ったりすることができるようにする。



○ 脚の回転

① 連続跳び箱(1段)の上で脚の回転をして立つことができる

② 板を利用して脚の回転ができる

③ マットの上で脚の回転ができる

ステップ	員分	先生
ステップ1		
ステップ2		
ステップ3		

(3) 授業研究会

協議題を「器械運動の学習を通して、児童が運動にすすんで関わろうとする体育学習の在り方はどうあればよいか。」とし、話し合いを行った。特に、目標達成につながる対話の促し方はどうあるべきかについて協議が深まった。協議を通して以下のようなことが見えてきた。

主体的

- ・ **ワークシートの活用**が有効であった。
- ・ 単元のゴールラインに何をもってくるかで単元中盤が主体的対話的になるかが変わる。

対話的

- ・ **ICTの活用**が対話につながっていた。タブレットの中に見本があるのも良いと思った。
- ・ ポイントが対話の材料になる。ポイントをどのように設定するかが重要だ。※マット運動の特性上対話は難しいが。
- ・ **ポイントの共有**がよかった 励まし合いの時間やうまくできないポイントを共有することもあるとなおよかった。
- ・ **タブレット**は自分で自分に向き合うことができる。主体的にもつながることだ。
- ・ **準備運動10**があることで器械運動につながる基礎感覚などを高めることができ、それが技の成功につながると、児童はきっと練習のよさを実感できるだろう。
- ・ 児童全員が、同じものを考える、同じものを見る、同じところへ向かっていくことが対話に必要な条件の一つだと考える。

深い学び

- ・ 成功例は知っているが、失敗例は知らない児童が多い。○○をしたらダメなんだと気づくことも深い学びの上では大切。
- ・ **振り返り**での気づきがよかった。○○すると○○できるようになったなどの気づきがたくさんあった。

6 研究の成果と課題

(1) 成果

体育科授業において、主体的・対話的で深い学びの視点で授業を展開することで以下のよう
なよさがあることが分かった。

- ① 自己の課題と向き合えるようなめあての設定やワークシートの工夫をすると児童は主体的
に活動するようになる。
- ② 具体的な技のポイントを全体で共有するとそれをもとにアドバイスし合うことができるよ
うになり、対話が促される。さらにタブレットを活用することで、自分の動きを振り返るこ
とができるようになり、自己との対話もより促されるようになる。
- ③ ①と②を意識した授業を進めることで、本時の目標を達成できただけでなく、児童はどの
ように取り組みば課題を達成することができるかなど様々なことに気付くことができ、深い
学びを促すことができた。

(2) 課題

- 今年は、授業改善の研究1年目ということもあり、学習指導過程レベルで主体的・対話的
で深い学びはどのようにあるべきかについて研究・協議を行った。来年度以降は、単元計画
レベルで特に、単元のゴールをどのように設定するべきかについて研究を深めることで、主
題に迫りたい。

IV まとめ

申間市では、児童数減少・学級数減少に伴い、職員数が減少してきている。職員数減少によっ
て一人にかかる負担が増えているものの、小体連の理事が協力し合い有意義な陸上記録会や授業
研究会を行うことができた。

今後さらに児童数・教職員数が減っていくことが予想されるが、その中でも児童が生涯にわた
る豊かなスポーツライフを実現することができるような素地が育成できるように、これまでの実
践を生かして創意工夫しながら取り組んでいくことが課題である。